



たけにとらざるすま
綴プロジェクト作品 竹に虎図襖

狩野山楽・山雪 筆 寄贈先：臨濟宗妙心寺派 天球院 原本所蔵：臨濟宗妙心寺派 天球院

襖絵と方丈建築が織りなすハーモニー。

「竹に虎図襖」は、禅寺の本堂、方丈の中で最も重要な空間、仏事が行われる室中にある。部屋を囲む二〇面に描かれ、竹林の東側に咆哮する虎、西側に虎の家族。北側に、垂直、水平を意識した描写の岩があり、画面を垂直に縦断する竹幹が金箔地に映えて、縞模様のように浮かび上がり、竹の葉が変化とリズムを加える。こうした幾何学的な構図は、天球院の鴨居や柱、室中から見える方丈前庭園など、空間全体との調和を狙ったものである。

妙心寺・天球院は、「竹に虎図襖」を原則非公開として、劣化から守り、後世へと伝えてきました。それを高精細複製品に置き換えることで、より良い状態での保存を実現し、一般公開も可能になりました。天球院の四〇〇年以上に渡る努力によって、守られてきた「竹に虎図襖」。その美しさを後世へ残すことは、変わることもない日本のこころを、伝えていきたいという願いが込められています。日本の美を、人へ、未来へ、伝えていく。

「綴プロジェクト」は、貴重な日本の文化財を高精細複製品として制作し、オリジナルの文化財の保存と複製品の公開を目的とする社会貢献活動です。海外に渡った文化財を高精細複製品として、日本に「里帰り」させているほか、綴プロジェクトで制作した作品35作品は、寄贈先の美術館や寺院などでの一般公開や、歴史教育の現場で生きた教材として、日本の優れた文化や芸術に、より身近に接する機会を提供しています。



詳細は、公式サイト
でご覧いただけます。
global.canon/ja/tsuzuri

公開情報

十二月十七日(金)～十二月二十六日(日)まで
綴プロジェクト作品・天球院方丈障壁面
が天球院にて公開されます。

日本の美を継承していくために
VOL.1
綴プロジェクト作品(高精細複製品)
◆重要文化財◆
『竹に虎図襖』 狩野山楽・山雪 筆

綴TSUZURI
文化財未来継承プロジェクト

Canon